



## 第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

VOD-11「ケースレポートを書こう！ -accept されるために必要なこと- 実践編」

### 【講師】

見坂 恒明（兵庫県立丹波医療センター/神戸大学大学院 地域医療支援学部門）

立花 祐毅（沖縄県立八重山病院内科）

八幡 晋輔（神戸大学大学院医学研究科地域医療教育学部門）

隈部 綾子（公立豊岡病院総合診療科／

神戸大学大学院医学研究科地域医療支援学部門）

角谷 慶人（京都府立医科大学循環器内科）

小佐見光樹（自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門）

合田 建（兵庫県立丹波医療センター総合内科／

神戸大学大学院医学研究科地域医療支援学部門）

鎌田 百香（兵庫県立丹波医療センター総合内科／丹波市ミルネ診療所）

水谷 直也（兵庫県立丹波医療センター総合内科／丹波市ミルネ診療所）

森 寛行（兵庫県立丹波医療センター総合内科／丹波市ミルネ診療所）

臨床研究に比し軽視されがちですが、医学研究においてケースレポートが果たす役割は大きく、臨床医学を切り拓いてきたのはケースレポートです。また、当学術集会で学会発表後、論文化される数が極めて少ないことが指摘されています。一方で、臨床研究に比し、ケースレポートは **accept** されるのが難しく、**paper writing** の腕の見せ所で、書き方の原則を知る必要があります。疾患頻度が「稀」なだけでは、論文化できません。企画者らのグループは、**Pubmed** 収載誌に多くのケースレポートを掲載した経験をもとに、実際に論文になった症例や持ち寄り症例を題材として、どのような観点からケースレポートを作成していくかを体験するワークショップを開催してきました。今回はその様子を事前収録したものを、オンデマンドで配信します。より多くの人に、ケースレポートの書き方、視点を知っていただきたいと思います。